

check1

構造金物

軸組計算を基に、在来工法を補強する‘構造金物’を基礎と土台・柱と梁・梁と小屋組み等の接続に使用しています。

check2

耐力壁

外周部に耐力面材を使用し、地震や台風などの外力を「面」で分散させるため「点」で受け止める“筋交い”より1.5倍以上強い構造です。

check3

剛床工法

床下地に厚み24mmの構造用合板を敷き詰め、台風や地震での水平方向の揺れに抵抗します。従来の根太工法よりも変形を防ぐ力が強くなります。

check4

煉瓦積み

強固な煉瓦積みとする為、複数の縦筋と横筋で煉瓦を補強し、専用モルタルで固定します。また、地震などの揺れが集まる窓まわりには、目地のヒビ割れ防止の為に煉瓦の間にメッシュ筋を挟み込んでいます。
※煉瓦積み補強に使用する金物はすべて、酸化防止の為にステンレスを使用しています。

check5

基礎

強固な基礎は、地盤づくりから始まります。全棟地盤調査を実施し、FLC工法に適切な地盤補強を行った上で基礎を施工します。スラブ配筋は、一般的に鉄筋径(D)10mm配筋間隔(@)225mmですが、FLC工法では鉄筋径(D)13mm配筋間隔(@)200mmとし、より強固な基礎を作り上げます。

